

# 「住めば都」で

## 「暮らし甲斐」あり



豊根村 清水館 石田夫妻

### 若者定住今昔物語 (昔編)

今回は、ブロガーとして豊根の情報を発信している豊根村商工会女性部の石田三千枝さんの紹介を通して、村に定住できそうな都市住民の性格の一例や、土地に馴染んでくればくるほど村人の気質や生活の環境が「地域資源」としてキラッと輝いていることに気付かされるというお話です。

三千枝さんは刈谷市の出身ですが、もともと奥三河には縁があったとのこと、村での暮らしはもう三十年近くになるそうです。

### 「主人とのなれそめは

母の友達に娘さんと私が友達同士で、その友達が主人の父のいとこに嫁ぎました。その友達から紹介されました。

実は、とりあえず遠くから見て、見た目で気に入らなければキャンセルありだったんですが、何か惹かれるものがあったので近づいて挨拶をしました。(なんかややこしいですが、親戚繋がりと友達繋がりが有り、見た目オツケーだったということですね。)

### 山村暮らしへの不安は

母が東栄町古戸の出身で、子どもの頃から川遊び・山遊びが大好きで、夏休みには十日ぐらい遊びに来ていました。

高校生・大学生の頃は、友達を連れて遊びに来ていたほど山が大好きだったので、この土地で暮らすことには何も抵抗は無かったですし、かえってうれしいなと思ったりくらいです。

子どもの頃から普段の暮らしには無いものがあつたのですか

古戸の祖母の家には「かまど」があつて、どうもろこしをゆでて食べたり、ご飯を炊いたり、それが済むと牛小屋にいる牛にとりもろこしの「つと」をやりに行きました。うさぎもいましたね。

中学になると、家を直して炊事はガスでするようになったんですが、どうもろこしをゆでるとなると釜で火をお

こすんですね。それが好きだったし、毎日川へ行くのがうれしくて、水が冷たいから五分くらい入っては出て陽に当たったりして、そういうふうに通つたし、そんなことが大好きだったんです。だから川や緑が大好きでした。

(都市部の子どもたちを積極的に受け入れ、自然に親しませることを通じて楽しい思い出となるようにすることは、後々のためにはものすごく大事なことです。)

### 嫁いで来た頃とは変わったと感ずることは

豊根に来て三十年近くになりますが、気候が一番変わったかなと感じていますが、温暖化の影響かどうかはわかりませんが、一年を通じての気温が上がつた気がします。

ここに来た頃は、冬は雪掻きしないと子どもをバス停まで連れて行けなかったんです。凍りついて戸も開かないというほど降つたんですが、最近はそのままで状況にはならないですね。逆に、茶臼山スキー場で雪を作るのに一所懸命だったりします。

暮らしの中では、世代が一周したような感覚になるほど冠婚葬祭などの行事に変化が表れたような気がします。そういう点では随分変わったかな。でも景色自体はあまり変わっていないんですよ。

(十年一昔と言いますが、三十年の

年月は気候と暮らしに大きな変化を与えたようです。景色自体が変わっていないように見えても・・・「森を見て木を見ず」なのかもしれませんよ。)



明るさ満点の女将 (おかみ) さんです

### では、変わらないものは

それは任んでいる人たちの人情ですね。例え一人暮らしでも畑で色々なものを作って、自分が食べる量はわずかなのに、それをできたからと言つてくださるんですよ。もったいないという意識と、作らないと畑がかわいそうとか作つたものはみんなに食べてもらいたいとかの気持ちなんです。その「おすそわけ」の気持ちたちが村全体にあるんです。

例えば、ある民宿で忙しいからと人を頼んだら、庭で採れたキャベツやらレタスやらを提げて、椎茸もあつたからって、みんなそんな感じで「おすそ

わけ」してくれるんです。自分が食べるわけでもないのに作って人にくださる、心が豊かというか、そこが豊根の人のいいところだと思います。「おすわけ」がそのまま「たすけあい」だったり「おもてなし」だったりするわけです。

ただ、売場人から見ると、山へ行ってタケノコを二時間もかけて掘ってきたのに、ただでくれるほど気がいいから商売つ気が無いとも言えるかな。これを即お金に換えようっていうことがあまりないですね。

売場で「まけてよ」って言われたらおまけであれもこれもつけちゃって「持って行きな」っていう気持ちの人が多そうですね。

そうそう、思い出話になるんですが、子どもが小学生だった頃、貸し農園を借りて農作業をやったことがあるんですよ。普通は自分たちで草刈りなんかしなければいけないじゃないですか。ところが、近所の人たちが子どもの代わりにきれいに草を取っちゃって、子どものやる事が無くなっちゃったんです。

やってやらにやあ、やってやらにやあっていう心って一日ではできないですよ。その人たちはそうやって自分が育てられてきたんです。

でも、これがあるから豊根なんです。在所に戻ったような気持ちになる

んですね。

(「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」の理念を持った近江商人に倣って、奥三河商人の理念を掲げるとしたら「損して得(徳)取れ」ってことになるのかな。)



下から聞こえるせせらぎの音も魅力です

### 村の商工会女性部の紹介を

主に自営業者の奥様がメンバーですが、活動としては、今でいうと、茶臼山の芝桜まつり会場に売店を出しています。五平餅、フランクフルト、焼きそば等売っているんですよ。他には、年二回ほど県商工会女性部の研修に参加して情報交換しています。

商工会も今はメンバーが減ってしまいい、どのように維持していくかが課題なんです。

今は芝桜でこんなにも大勢の人が豊根村に来てくれてますので、これを

チャンスと捉えてどう村のため、お客様のために貢献できるかを考えています。平日仕事で疲れているご主人を週末に連れ出してまで家族でがんばろうとしています。

ただ、あまりにもお客様が多過ぎてどう対処したらよいか一杯いっぱいの状態なんです。これからいいアイデアを出して、どのようにお客様に楽しんで頂くかを考えていくのが自分たちの役割だと思っています。

### 今やれることを挙げる

焼きそば一つ、フランクフルト一本にしても、ただ売るだけでなくお渡しするときに「今日は寒かったね」とか声をかけていて、お客様の心に残るような「おもてなし」の心を大切にしています。

### お土産ものなどメイドイン豊根へのこだわり

みんな考えていることなんです、まず絶対的に人手が足りないんです。しかも期間限定で。もっと人数がいたら豊根で採れた蜂の子を使った蜂ご飯や、ここら辺りのヨモギを使ったものが作れるんですが・・・茶臼山で売ったら、お客様にどんなにか喜んで頂けるかと思っています。

でも、ふだんお掃除の手伝いに来てもらっている人も別のグループの五平餅作りに朝から晩までつきつきりで。作っても作っても追いつかないくらい

で、芝桜まつりの一か月は人がいなくなるんです。

だから、芝桜の期間以外でも働ける場所があって、ＩターンでもＵターンでも人が大勢いれば、さらに色々なことができ、地元のを売っていいける、そういう願いはありますが、そこまで至っていません。

(村では「とよねブランド」を推進していますよね。その推進力として若者が多く携わっていきける仕掛けが創れたらいいですね。進学とか就職とかで村から離れていく子どもたちのアイデアが詰め込まれた商品があったら気になって帰ってきますよ、きつと。)



芝桜まつり期間限定メニュー登場

若者が住み着くためにも一年を通して働ける場所が必要と

それは村人全員の悲願だと思います。森林組合ではＩターンの方が大勢いら

して、家族全員で、子どもも連れて来てくれていた方たちもみえますので、そういう方たちがこの土地に慣れて、私たちとも身近に接して頂けるようになります。「さあ芝桜だから、自分も豊根村の一員として手伝いにいこうじゃないか」となれば・・・徐々にそういう気持ちになってくれるといいなと思っています。

**そのような取組の糸口となるような交流は進んでいますか**

まだまだですが、お母さんたちは保育園や小学校で交流していますので、徐々に私たちとも繋がりができるんじゃないかと期待しています。

(すでに問題解決の糸口を見つけて出していますよ、あとは行動あるのみ)  
**若者定住のために村全体で力を入れた方がよいと思うものは**

働き口の確保もそうですが、住む所も大切です。今の若い人たちが住みたいと思えるような村営住宅があるといいですよ。

住まいの造りなどは子育て真っ最中の若夫婦さんたちから意見をもらうなど、みんなで知恵を出し合って空き住宅をリフォームして外向けに宣伝したら、住んでもいいかなと思ってくれませんか。

**見方を変えて、こんな感覚の若者には向いてないかなと思うものは**  
都会と全く同じものを求めることで

でしょうか。ここにいっても変わらずにできる遊びはありますし、遊びたい場所に遊びに行けばいいこともあります。実は、合宿の下見に来た大学生に「コンビニが近くに無いから合宿に来られません。」って断られたことがあったんですよ。この人たちは合宿に来てまでコンビニに縛られる、その神経とか感覚が不思議でしたね。

おやつなんか何日分か買い溜めすれば済むことですよ。このきれいな空気が涼しい夏の気候を捨ててまでコンビニの方がいいのかって。計画的に買い物をしていきますので、「不便ですよ?」って聞かれると、「何が不便なの?」って思いますね。



今も昔も看板女将です (もちろん看板主人と一緒に)

**では、宣伝の一例を**  
保健師さんたちのケアは大変手厚い

ですよ。私が子育てをした二十数年前でも、どこの誰かと顔も名前もわかってるので、健康診断も予防接種も安心感が湧くくらい手厚くやっていただけでした。

医療の補助もいいものがありますし、そういう点では困ることはありませんでしたから、その意味でも子育てしやすい環境がここにはあるんです。私はこの豊根村の方が都会よりもサポート体制がしっかりしていると感じています。

例えば、都会の友だちに聞くと、住民検診なんか受けたことが無いって言いますが、村では基本検診も乳がん検診も全部保健師さんがしっかりとやってくれて、もし引掛かると電話がかかってきて、検診に行つたかどうか確認したりしてしっかり面倒見てくれるんですよ。だから、かえって一人ひとりに対するケアは手厚いんじゃないですか。

(病気になってからお医者さんにかかる前に、大病を患う前にという保健・予防の観点からの取組が大切にされているということですね。)

**医療施設などが少なく不安視する都会の人たちに向けて一言**

実際に医者にかかるとなると、隣町の東栄病院には車で三十分くらいで行けますし、豊根村には診療所もあります。都会で救急車のたらい回しや二時

間待つての三分間診療のニュースなどを見るにつれ、東栄病院の救急体制が整っていることが一番の安心です。ここでは必要となればすぐ次の病院へ回していただけるので、あまり不安に思うことは無かったです。

街の人にとってはなかなか想像できないと思いますが、ドクターヘリがすぐに来てくれます。実際の話として、自転車で転んで大ケガをした人が名古屋の病院までヘリコプターで運ばれたことがあったんですが、名古屋在住の親が病院に着くよりも本人の方が早く運び込まれたと聞きました。

うちでもおじいさんが心筋梗塞の折りにお世話になったんですが、飛び立てば豊橋のハートセンターまで八分くらいですよ。それぐらい早いんです。

(山間地での地域医療に関しては、まだまだ課題があり、解決すべきことが多いのも事実ですが、ある意味それは違った形で都会にもありますよね。)

**高齢化に向けて村の商工会女性部は**  
商工会のメンバーは、ほぼ全員が親と同居していますので、介護とかの問題を抱える立場の人たちです。

うちにも両親がいますが、いつも言うことは「家にいたい」です。それを実現してあげられるような、そして自分も家にいられるような、そういう生活環境、商売環境を整えていく取組で私たちにもできることを見つけて実践

できたらいいなと思っっています。  
**在宅介護と商売の両立で必要とされるものは**

うちは両親が元気で、幸いにも今まで介護に直面していません。逆にそうなった場合にどうしたらいいのっていう不安があります。明日でも起こるかもしれないことなので、そうなった場合の相談先がしっかりとあることが心強さに繋がりますね。



無銭宿泊したムササビ？ (撮影後に無事退散)

**一人暮らしの高齢者も多いことに向けては**

社会福祉協議会の車がそういうお宅の前によく停まっているのを見るので都会の孤独死のような状況にはなりにくいのでは。高齢者福祉に携わる方たちがいるおかげでみんな助かっているし、いずれお世話になるのかなど。改めて自分自身に振り返ってみると村全体のことを広い目で見ることが足

りなかったと感じていますので、これからはもっと視野を広げていかなければと思います。

(これは地域ニーズから介護ビジネスがコミュニティビジネスとして芽が育つという土壌なのかも。若者定住に向けた職種選択の機会を増やすためにも、まずは事業者、利用者の二つの視点を併せ持つことができる商工会女性部内での検討に期待します。)

**最後に、村から情報発信しているブログとして一言**

ドライブ情報誌でガズームラ(トヨタ自動車運営するポータルサイトの刊行物)というのがあるんですが、このブログになったのも実は観光協会からのお誘いがあったのがきっかけです。

豊根村では何人もこのサイトのブログとして登録しているんですよ。みんな村に注目してもらいたいという気持ちが表れています。

若い人たちには色々な形で地域の情報発信してもらいたいですね。地域のことをよく知ってないと伝えることができないように、「伝えたい」という気持ちで地元を「よく知る」に繋がると思っています。

インターネットの環境整備が豊根村でも進んだおかげで、毎日きれいな川や緑を見て暮らし、なおかつネットの世界で外国にいる人たちとも交流して

同じ時間(とき)を共有できたり、ショッピングで流行りものをすぐ手にいれたり。これはとてもぜいたくなことだと思えます。

このすばらしさを若い人たちにもっと体感してほしいですね。ネットの買い物は面白いですよ。ここでも注文して翌日に届くことは、今ではめずらしくありません。自然たっぷり、人情味溢れる山里で暮らし、新鮮な山の幸に囲まれながら新鮮な情報もつかみ取る。これが豊根村の今なんです。

(だから、「住めば都」で「暮らし甲斐」ありなんです。)

最後に、お忙しい中でも快く対応して頂いた石田三千枝さん、喜章(よしふみ)さん、ありがとうございます。

「昔はよかった」ではなく、将来を見据えて定住してきた若者たちと積極的に繋がろうと取り組まれている豊根村商工会女性部の皆さんの眼はきつとキラッと輝いていると思います。

(スポーツ根性系少女マンガのヒロインを想像してください・・・)

(文責 山村振興課 袴田)

石田三千枝さんのブログは、Gazoo Mura (ガズームラ) に掲載されています。

<http://gazoo.com/mura/> 東海ブロック 豊根 (愛知)